

金蔵地区(石川県輪島市)

CASE
No.01

石川県 輪島市



photo by Wajima city

基本情報

所在地	石川県輪島市町野町金蔵	
主な取組内容	集落全体で棚田営農し、歴史・文化活用の交流や特産品づくり	
実施体制	中心的主体	NPO法人 やすらぎの里 金蔵学校
	連携主体等	金沢大学、石川県、市民ボランティア
生態系タイプ分類	コナラ林(西日本)	
地域区分	中山間地	
環境タイプ	二次林、水田、畑、小川・水路、ため池、社寺林、人工林	

取組内容

金蔵では集落内にある5つのお寺の檀家の繋がりにより、外部との交流を持ち続けることで繁栄してきた。現在は人口が減少し過疎化が深刻になっているが、地域外の都市住民等呼びこみ、交流人口を確保することで地域活性化を図っている。具体的には、独特の歴史・文化や伝説が残っていることを活かした集落のエコミュージアム化や、イベントの開催等を行っている。また、お寺の境内にカフェをオープンし、棚田では減農薬の付加価値米や酒米を栽培するなど、特産品も開発し、来訪者の増加を目指しつつ、生産基盤であり集落景観の主要素でもある棚田や畑の存続を図っている。大学とも連携し、学術的な生物調査等も実施されている。



活動の様子

取組の特徴

POINT
1

交流人口の確保と農業の存続による集落の活性化

過疎化が進む集落へ来訪者を呼び寄せ、生産基盤である棚田の保全活用も図る

金蔵集落には五ヶ寺と呼ばれる5つのお寺がある。それぞれのお寺の檀家には金蔵集落以外の住民もいるため、常に外部の住民との交流が保たれており、この交流の仕組みが金蔵集落の繁栄にも繋がっていた。過疎化が進む現在にその考え方を取り入れ、様々な取り組みを通して都市部からの来訪者獲得を試みている。

金蔵地区の主な取組



集落の散策マップ(金蔵散策絵図)



金蔵万燈会



境内のカフェ

POINT
2

集落のエコミュージアム化

地域の文化や歴史を活かし、来訪者の受け入れ体制をつくる“やすらぎの里創り”

金蔵地区はその歴史が深く、室町時代の趣を残す集落が特徴的である。また、集落には金蔵のシンボルである五ヶ寺を中心に様々な歴史や伝説が現代にも伝承されている。このような特徴を活かしながら、外部からの来訪者の受け入れ態勢を整える「やすらぎの里創り」に取り組んできた。主な取組内容は右表の通りである。

やすらぎの里創りの主な取組内容とポイント

取組	ポイント
<やすらぎの里創り構想の作成> 集落の整備方針をまとめ、活動メンバーの中での確認作業を実施	<ul style="list-style-type: none"> 活動メンバーが知恵を出し合って作成し、どのような方針で整備するかということを確認してから実際の整備を開始した。
<ツツジ千本運動・サクラ千本運動> 集落内の散策路にツツジやサクラを植栽し、景観の向上を図った	<ul style="list-style-type: none"> 元からある景観に加え、外部へアピールできるような景観要素を創出し、景観の向上を図った
<標柱・解説板の設置> 集落内の現在地を示す標柱と、それぞれの見所について紹介した解説版を設置	<ul style="list-style-type: none"> 道がわかりづらい集落であるため、迷いにくいように整備 景観や資源を見るだけではなく、知ることができるように整備
<金蔵散策絵図の作成> モデルコースとその所要時間、金蔵の見所やそれにまつわる伝説、標柱の位置、駐車場やトイレの位置などを記載した地図を作成	<ul style="list-style-type: none"> 複数のモデルコースと所要時間を掲載し、来訪者のニーズにあった散策の仕方を提供 標柱の位置を地図上に記載し、道に迷わないような仕組みにしている 集落の歴史や伝説を見所とともに記載することで、金蔵の独特の雰囲気を感じやすくなっている
<オープンカフェ「木の音」> 五ヶ寺のひとつである慶願寺の境内にカフェをオープン	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者の休憩場所としての役割を果たす 金蔵のシンボルである五ヶ寺の雰囲気を体感することができる 金蔵にまつわるメニューを提供 地場農産物を使用することで、金蔵の農産物需要増加にも貢献



五ヶ寺の一つ、金蔵寺の解説板

取組の成果

- 人口180人ほどの集落であるが、年間8,000人も観光客が訪れるようになり、交流人口は以前の何倍にも増加している。
- 面積は減少しているものの水田耕作が存続され、古くからの農山村の土地利用・生活が継承されている。
- 金蔵の歴史・文化を物語るものとして、寺院などの建造物や、伝説などの無形の遺産が今日まで引き継がれている。
- 長年の水田耕作を通じて、水辺の豊かな生物相が今日まで引き継がれている。
- 様々な分野の研究フィールドとなり、多数の研究者が調査・研究に訪れている。
- 金蔵万燈会は多数の観光客が集まる定期イベントとして定着した。
- 平成16年には「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に、平成21年には「にほんの里100選」に選定された。



photo by Wajima city



上:金蔵地区の風景
下:五ヶ寺の一つである正願寺



取組のキーパーソン・キーセクション

NPO法人 やすらぎの里 金蔵学校 理事長 石崎英純さん

金蔵集落の過疎化が進み、地域のよりどころであった小学校が廃校になった後に、再び金蔵の集落を元気にし、独特の歴史や文化を後世に伝承しようと「金蔵学校」が開校された。石崎さんは開校当初から金蔵学校の代表を務めており、他の活動メンバーとともに様々なイベントの企画等を行い、元気な金蔵の復活を目指している。

コンタクト先: NPO法人 やすらぎの里 金蔵学校 〒928-0236 石川県輪島市町野町金蔵ノ部38番地
TEL 0768-32-1562 E-mail gakkou@po5.nsk.ne.jp URL <http://po5.nsk.ne.jp/~gakkou/activities.html>

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
ブナ北限の里「黒松内」	14	北海道	黒松内町	農村の生業継続へ、笹地でのブナ林再生などブナ北限の里づくり
石部の棚田	61	静岡県	松崎町	地元主導で棚田復元し、企業、大学などに参加の輪が広がる
河和田東部	65	福井県	鯖江市	集落連携で行う鳥獣害対策などにより農地や山林を保全
下栗の里	67	長野県	飯田市	高標高、急峻な山肌、伝統文化や農林業を継承し、積極的に情報発信
祝島・石垣の棚田	118	山口県	上関町	島の特性を活かした第一次産業の継承・発展、「放牧養豚」の取組も
梶原	126	高知県	梶原町	持続可能な森林利用を目指してFSC認証を取得し、原木・加工・住宅までの一貫システムを構築
江里山の棚田	131	佐賀県	小城市	地の利を活かし減農薬で米作り、棚田景観で都市との交流も

取組の手法①-b: 里地里山イメージを活用した農林産品の高付加価値化と販売力強化

豊岡盆地・円山川(兵庫県豊岡市)



兵庫県 豊岡市

基本情報

所在地	兵庫県豊岡市 円山川流域	
主な取組内容	おいしく安全なお米と生きものを同時に育む「コウノトリ育む農法」を拡大、推進	
実施体制	中心的主体	地元農家(農業組合等)
	連携主体等	豊岡市、豊岡農業改良普及センター(兵庫県)、JAたじま、大学等研究機関、コウノトリ共生農業推進協議会(「コウノトリの舞」農産物等生産団体認定審査会)、環境ボランティア団体、地元小学校等教育機関
生態系タイプ分類	コナラ林(西日本)	
地域区分	都市周辺～中山間地	
環境タイプ	二次林、水田、小川・水路	

取組内容

兵庫県豊岡市は日本で一度は絶滅したコウノトリの最後の生息地であり、その野生復帰の取組が進められている。地域が一体となってコウノトリも住めるまちを実現するため、豊岡市は環境と経済の両立を目指す「環境経済戦略」を策定した。その代表的な取組みが、「コウノトリ育む農法」の実践である。

コウノトリは水田を主な採餌場とする大型の肉食鳥類であるため、野外での生息には多様で多量の生きものが生息する水田が不可欠である。そこで、地元農家が専門家や行政等と協力し、生物多様性を活かした農業技術を試行錯誤しながら実践している。また、市は基準を満たした農産物に対し、「コウノトリの舞」の認定をしている。認定された農産物はブランド農産物として消費者から好評を得ている。



水田で生きもの調査をする子どもたち

水田で餌をついばむコウノトリ

取組の特徴

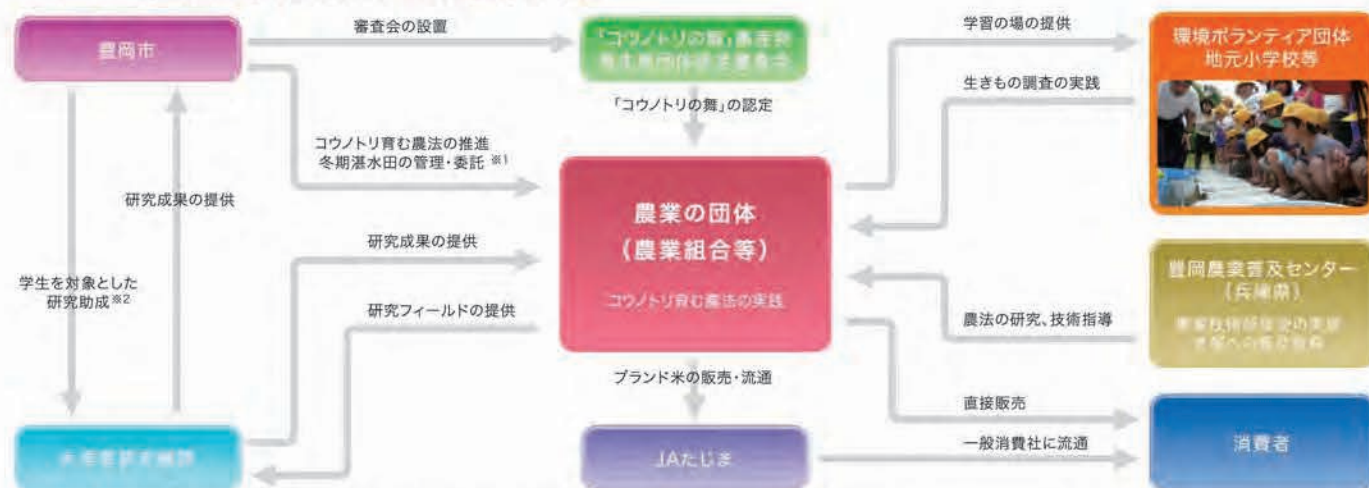
POINT 1 環境創造型農業の推進と農産物のブランド化

多様な主体が協力しながらコウノトリと共生する農業を実践

豊岡市が策定した環境経済戦略の柱の一つに「環境創造型農業の推進」がある。これに基づき、様々な団体が連携しながら、「コウノトリ育む農法」が実践されている。また、豊岡市は学識経験者、生産者、消費者、行政等からなる「コウノトリの舞」農産物等生産団体認定審査会を設置し、団体を対象にして「コウノトリの舞」の認定を行っている。この団体が生産した農産物は「コウノトリの舞」の認定ステッカーを貼って販売され、安全・安心を求める消費者から好評を得ている。



「コウノトリ育む農法」の実践における連携体制の例



※1 コウノトリと共生する農村環境整備事業 (H22年度実績 6,416千円) ※2 コウノトリ野生復帰学術研究補助制度 (H22年度実績 802千円)

取組の成果

- コウノトリ育む農法で栽培された米は、ブランド米として慣行栽培米の約1.5~2倍の価格で売れるようになり、農家の収益力が向上した。
- コウノトリ育む農法の実践農家が増加し、コウノトリも住める地域が実現に近づいている。
- 生きものとお米を同時に育む稲作技術が、生物多様性を育む農業技術の先進事例として注目されている。視察研修等で全国各地から農家が訪れるようにもなった。
- 環境創造型の農業の実践が収入の向上にもつながり、環境と経済が両立した地域づくりが実現に近づいている。



生きもの調査の様子



水田に増えてきた生きものたち



水田がなくなると市民共働も(ピオトープづくり)

POINT 2 生物多様性を活かす栽培技術の確立

生きものの豊かさを稲作に活かす技術を確認し、生きものと共生する農産物を生産

環境に配慮した農業は慣行農法に比べて手間がかかるほか、収量も減少することが予想される。豊岡市では、農業を実践する地元農家が行政やJAのほか、様々な農業技術支援団体と協力し、生物多様性が豊かなことを稲作に活かす「環境創造型稲作」の確立を目指している。その主な内容は下表の通りである。



農作業中に訪れたコウノトリ

環境創造型稲作の主な内容

内容	期待される効果	
	生きものに対する効果	稲作に対する効果
無農薬栽培	● 農薬を使用しないため、多様な生物が水田内に生息・生育可能になる	● クモ類、トンボ類、カエル類等の天敵となる生きものが生息することにより、害虫の大発生を抑制する ● 藻類が繁茂することにより水中への太陽光を遮断し、雑草の発芽を抑制する
米ぬか散布	● イトミミズや微生物が増殖する ● 除草剤を使用せずにすむため、多様な生きものが水田内に生息・生育可能になる	● 肥料としてはたらく ● トロトロ層が形成されることにより雑草種子が埋没し、発芽が抑制される
深水管理	● 多様な水生生物の生息・生育場となる	● 雑草(主にヒエ類)の発芽・成長を抑制する
冬期/早期湛水	● イトミミズが増殖する ● カエル類の産卵場となる	● 水生生物の越冬場となる ● 渡り鳥の休息の場となる
中干し延期	● オタマジャクシの変態やヤゴの羽化を助ける	● 害虫を捕食するカエル類、トンボ類を保全することにより、害虫の大発生を抑制する
ピオトープ水田(生きもの逃げ場)の設置	● 非湛水期の水生生物の生息・生育場となる	● イトミミズのフンで形成されたトロトロ層に雑草種子が埋没し、発芽が抑制される ● 水鳥が雑草の球根類を食べる
水田魚道の設置	● 水域間の水生生物(主に魚類)の移動経路を確保する	● 水田内の生物多様性の向上

取組のキーパーソン・キーセクション

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

豊岡市では、コウノトリをシンボルとしたまちづくりを進めるため「コウノトリ共生課」が設置されており、農林水産課、農業共済課などと共にコウノトリ共生部を組織し、農の活性化を図っている。また、同課を中心に策定された「豊岡市環境経済戦略」に基づく取組みが、環境行動と経済活動の共鳴を生み出し、活動の持続可能性を生み出しつつある。

コンタクト先: 豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課
〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号 TEL 0796-21-9017
E-mail kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp
URL <http://www.city.toyooka.lg.jp/> (豊岡市役所)

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
神子原地区	62	石川県	羽咋市	農家出資の地産地消企業などで活性化を図り、定住促進
古田地区	76	三重県	いなべ市	休耕田の再生・和菓子生産を通じた農村環境保全と文化の伝承
国府町上地地区	105	鳥取県	鳥取市	棚田用水路保全、酒米づくりに定期的にボランティアが参加し、交流
北庄の棚田	111	岡山県	久米南町	伝統的水利技術利用の棚田の米をブランド化し、オーナーにも販売
馬路村	125	高知県	馬路村	特産品であるゆずを活用して特産品を開発し、村そのものをブランド化

薩摩川内地域の竹林(鹿児島県薩摩川内市ほか)



鹿児島県
薩摩川内市

基本情報

所在地	鹿児島県薩摩川内市ほか
主な取組内容	筍農家、竹チップ工場、製紙工場など竹を軸にした産業連携を形成
実施体制	中心的主体 中越パルプ工業(株) 連携主体等 鹿児島県内各地のチップ工場(10ヶ所)、筍生産農家等の竹林所有者、竹林整備に携わる地方自治体・NPO・組合等
生態系タイプ分類	シイ・カシ萌芽林
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、竹林

取組内容

鹿児島県の竹林面積は約16千haであり、全国47都道府県の中で最大の面積を誇る。かつて竹は日用品の材料や食用(筍)として広く利用されていたが、石油製品等の普及や安価な中国産筍の輸入拡大によって利用量が激減したことにより、放置竹林が増加し、生物多様性の劣化や、景観・土壌保全機能等の生態系サービスの劣化が大きな問題となっている。

薩摩川内市内に立地する中越パルプ工業(株)川内工場は、放置竹林の対策に苦慮していた鹿児島県からの相談や、地元筍農家からの伐採竹を有効利用したいとの要望に応え、平成10年に竹紙の生産に着手した。現在では、中越パルプ(株)による竹紙生産を核として、竹紙の原料を供給する筍農家やチップ工場、竹林整備に取り組む組合やNPO、地方自治体等の連携による「竹の産業連携」が形成され、自然環境保全や地域活性化に大きく貢献している。



竹紙を使用した様々な印刷物

取組の特徴

POINT
1

バイオマス活用のための資源収集体制の構築

生産コストの抑制に向けた地域関係者との連携による竹収集体制の構築

竹の繊維は広葉樹より長く針葉樹より短いため、製紙原料として利用することによって強くしなやかな紙を生産することができる。これまで竹が製紙原料として利用されていなかったのは、内部が空洞であるため原料収集量に対する紙の生産量が小さく、木材を原料とする場合に比べて生産コストが高いことが大きな原因であった。

中越パルプ(株)川内工場は、地域資源を原料とする竹紙の生産コストを抑制するためには、自らの工場における努力に加えて、工場に運び込まれる前の伐採・搬出やチップ化の工程の効率化が重要であると考え、地域の多様な関係者と連携することにより、「チップ工場を核とする効率的な収集体制の構築」や、「筍生産者以外の伐採・搬出者との連携による年間を通じた安定的な原料確保」などに努めてきた。

竹紙ができるまでの流れとコスト抑制の工夫



POINT
2

バイオマス活用のための持続可能な関係づくり

多様な主体の協力を得るための利益と負担の「分かち合い」という考え方

中越パルプ(株)川内工場を中心とする竹紙生産の取組においては、多様な関係者による連携体制を持続させるための考え方として、特定の主体に利益や負担が偏ることがない「分かち合い」が重視されている。このような考え方に支えられて、取組に参加する主体が着実に増加している。

「利益と負担の分かち合い」の考え方

関係者	利益	負担
中越パルプ(株)	自然環境保全や地域社会貢献という付加価値を持つ竹紙を生産・販売することができる。	竹紙の生産コストは、従来の木材紙に比べて歩留りが低く割高となる。
チップ工場	新たに竹を受け入れることにより、チップ生産設備の稼働率を高めることができる。	竹は内部が空洞であるため生産効率が悪く、材質が堅いため破砕機のナイフ交換頻度が高くなる。
伐採・搬出者 (筍生産農家、作業受託者等)	竹をチップ工場に持ち込むことにより収入を得ることが出来る。	軽トラックで竹をチップ工場に持ち込むという新たな作業が発生する。
地方自治体	公共事業で竹を伐採することにより、自然環境保全や雇用創出等の公益的な効果がある。	公共事業実施のための財政支出や業務負担が必要となる。

取組の成果

- 竹紙の原料として年間10,000t以上の竹が伐採されることにより、林床まで日光が差し込む健全な竹林の面積が増加するとともに、隣接する森林への竹の侵入が抑制され、地域の生物多様性の向上や景観の改善などに大きく貢献している。
- 竹紙の生産を核とした産業連関が生み出されたことにより、畜生産農家の新たな収入源の創出、チップ工場設備の稼働率向上、竹林整備事業に伴う雇用創出などの経済効果が生まれ、地域活性化に貢献している。
- 環境と経済の両面から持続可能性が高い地域資源活用取組であることが評価され、「第1回いきものにぎわい企業活動コンテスト」で審査員特別賞を受賞した。



取組のキーパーソン・キーセクション

中越パルプ工業株式会社 川内工場

中越パルプ工業(株)は、経営理念の一つとして「環境と社会に貢献する企業に」を掲げており、川内工場においても、このような姿勢から、地域の多様な主体との連携による竹紙の生産に取り組んできた。2010年7月には、竹紙の生産量及びバリエーションの拡大に向けた設備拡充を行ったことから、さらなる需要と顧客の開拓に向けて、竹紙の品質と地域との共生という付加価値をアピールしている。

コンタクト先 中越パルプ工業株式会社 川内工場
〒895-8540 鹿児島県薩摩川内市宮内町1-26 TEL 0996-22-2211
URL <http://www.chuetsu-pulp.co.jp/>

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
鎌倉山	35	栃木県	茂木町	堆肥化原料に里山の下刈り、落葉を収集し、土壌回復、減農薬に貢献
赤目の里山	75	三重県	名張市	里山保全グループにより小規模分散型木質バイオマス利用を推進

取組の手法②-a: 生物多様性に富み、人々に豊かと感じられる里地里山環境の保全、創出

舟志の森(長崎県対馬市)



基本情報

所在地	長崎県対馬市舟志地区
主な取組内容	持続可能な林業経営と野生生物の保護を目指し、企業、地元集落が協働
実施体制	中心の主体 舟志の森づくり推進委員会(舟志区、住友大阪セメント㈱、ツシマヤマネコ応援団、対馬市からなる連携組織体) 連携主体等 環境省対馬野生生物保護センター
生態系タイプ分類	シイ・カシ萌芽林
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、草地、池沼・湿地、人工林、ため池

取組内容

住友大阪セメント㈱が所有する社有林及び休耕地約16haにおいて、ツシマヤマネコをはじめとする野生生物保護と、持続可能な林業経営を目指して、地元舟志区、住友大阪セメント㈱、ツシマヤマネコ応援団、対馬市の4者が「舟志の森づくり推進委員会」を組織し、森林管理を実施している。

人工林は適正に管理し、生物多様性を向上するとともに木材を生産するために活用し広葉樹二次林部分は開発等をしないで良好な環境を保存する。どんぐりの苗づくりには地元小学校も参加し、子どもたちの環境への理解にも貢献している。休耕地は湿地として機能しているため、多様な生物が生息できるように水位を管理している。



舟志の森に姿を見せたツシマヤマネコ
(2頭同時に撮影されるのは非常に珍しい事です。)

活動に参加する子どもたち

取組の特徴

POINT
1

野生生物生息地保全のための森林管理

ツシヤママネコの生息地となる森林の再生・創出と地域活性化

舟志の森ではツシヤママネコの生息地の保全を目指し、土地利用や植生に応じてゾーニングした管理計画を策定している。この管理計画に基づき、地元舟志区が中心となって森林管理されている。廃校を再生し、ここを拠点としたエコツーリズムの展開を検討するなど、保全活動にとどまらず、地域活性化へも動き出している。



植栽地でのソバ栽培

舟志の森における取組

取組の種類	概要
人工林の管理	<ul style="list-style-type: none"> 間伐を行い、植林地の適切な管理を行う 木材生産にも考慮した施業を行う 一部の地域では皆伐して広葉樹の苗を植え、広葉樹林として再生させる
伐採跡地の管理	<ul style="list-style-type: none"> 野生生物が生息しやすい広葉樹林として再生を目指す 広葉樹林として再生するために、対馬に自生するコナラ等のドングリを集めて苗を作る
広葉樹二次林の管理	<ul style="list-style-type: none"> 開発を行わず、現在の環境の維持・保全を図る方針で管理作業を実施する
休耕田の管理	<ul style="list-style-type: none"> 湿地として機能しているため、水位の管理により多様な生物が生息できる環境の維持を図る ツシヤママネコの他、対馬固有種であるツシマアカガエル等の貴重な両生類の保全をねらう
草地(茅地)の創出	<ul style="list-style-type: none"> 草地を創出し、生物多様性の向上を図る 特にツシヤママネコの餌となるネズミ類の増殖をねらう
生物調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> 環境省が住民参加型の調査として、ツシヤママネコの生息状況調査、餌となるネズミ類のモニタリング調査を実施する
拠点施設の確保	<ul style="list-style-type: none"> 廃校となっていた旧舟志小学校を「舟志の森 自然学校」として改修し、宿泊施設やトイレ、多目的スペース等を整備
環境教育・意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 植樹祭を開催 地元小学校の参加によるドングリの苗作りを実施
地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> 「舟志の森 自然学校」を拠点としたエコツーリズムを検討中 ツシヤママネコだけではなく舟志地区の自然・文化を活かし、地元住民がそれぞれの得意分野を活かしたガイドとなることを目指す

POINT
2

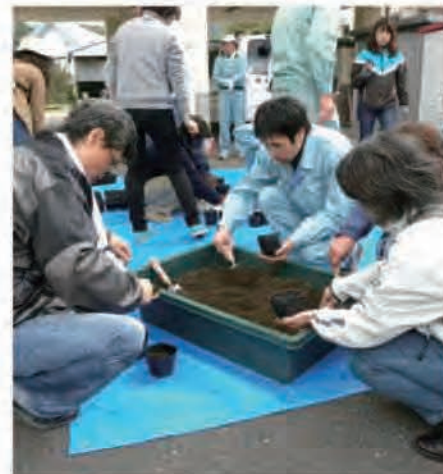
多様な主体が連携する取組の体制

地元住民、企業、行政、ボランティア団体の連携による活動

舟志の森では、森林管理の主体である地元住民、土地所有者である住友大阪セメント(株)、行政機関である対馬市、対馬にてドングリの苗作り等の活動を続けてきたボランティア団体であるツシヤママネコ応援団の4者が協定を結び、「舟志の森づくり推進委員会」を組織している。この4者に環境省対馬野生生物保護センターを加え、それぞれの立場を活かした役割を果たすことで、効果的な活動が実践されている。

舟志の森における各主体の役割分担

<p>舟志区(地元)</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林管理の業務を請負う形で間伐等の作業を実施 	<p>住友大阪セメント(株)</p> <ul style="list-style-type: none"> CSR活動の一環として、社有林を無償提供 間伐等が必要な人工林管理のための費用等の負担
<p>ツシヤママネコ応援団</p> <ul style="list-style-type: none"> ドングリの苗づくり 植樹祭等のイベントの企画運営 	<p>対馬市</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局を担当 運営費の管理、関係者間の連絡調整等
<p>環境省対馬野生生物保護センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ツシヤママネコの保護の観点からの助言 参加型のツシヤママネコ生息状況調査 	



どングり苗づくりの様子

取組の成果

- 森作りの成果が見えるようになるには時間がかかるが、地元、団体、行政、企業の4者の連携体制が確立し、活動の継続が期待される状態になった。
- この活動をきっかけとして、活動地以外の森についても適正に管理するための仕組みが模索され始めている。
- 舟志の森において、自動撮影装置によりツシヤママネコの姿が確認され、生息地として利用されていることが明らかになった。

取組のキーパーソン・キーセクション

舟志の森づくり推進委員会

地元住民、行政、企業、ボランティア団体の4者による協働はツシヤママネコの保全が目的としては初の試みであったが、それぞれの得意分野を活かすことで効果的な活動となり、ついに舟志の森でツシヤママネコが確認されるまでになった。今後は保全管理のみではなく、地域活性化の取組も進めていく予定である。

コンタクト先: 舟志の森づくり推進委員会事務局(対馬市自然環境推進室内)
〒817-0022 長崎県対馬市厳原町国分1441番地
TEL 0920-53-6111
E-mail hrkz-kusu@city.nagasaki-tsushima.lg.jp

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	事業内容
ハサンベツ里山	15	北海道	栗山町	生物多様性に配慮した河床保全や草刈りで害獣異常発生を抑制
弘前だんぶり池	17	青森県	弘前市	中山間地耕作放棄水田におけるピオトープ造成、トンボやメダカ等が復活
矢沢地域	18	岩手県	花巻市	ゼニタナゴを中心とする淡水魚類の保全活動、環境教育等を実施
久保川イーハトーブ	22	岩手県	一関市	伝統的里山管理の維持継続で多様な動植物生息環境を確保
蕪栗沼	26	宮城県	大崎市	蕪栗沼周辺の水田で環境保全型農業に取り組み、野鳥や水田周りの生き物を保全
太田町駒場	27	秋田県	大仙市	イバラトミヨが生息する湧水・水路等を保全
穴塚大池周辺	32	茨城県	土浦市	活動団体が多様な主体と協働し都市近郊の里山を総合的に保全・活用
天覧山・多峯主山	38	埼玉県	飯能市	開発中止の用地をNPO主導で環境回復、関係企業・行政も協力
下大和田谷津	41	千葉県	千葉市	谷津田保全に古代米栽培で参加を募りメダカなどの生息場を維持
奈良川源流域の谷戸・樹林地	49	神奈川県	横浜市	里山里山の自然資源を活用した公園の管理、農作業支援などを通じ源流域の生物多様性保全
小佐渡東部地区	56	新潟県	佐渡市	トキの野生復帰を目指し、農地や森林整備と人々の理解促進
桶ヶ谷沼	59	静岡県	磐田市	行政、研究者、NPOが連携しベッコウトンボを指標に里山保全
中池見	64	福井県	敦賀市	伝統的稲作の復活により水田と関わりが深い希少動植物を保全
白山・坂口地区	66	福井県	越前市	環境保全型農業、農産物ブランド化を進め、動植物調査・保全活動も
河辺いきもの森	81	滋賀県	東近江市	行政、NPOが協力し、多様な生き物が生息できる里山づくり
いなみの台地	96	兵庫県	加古川市	散在するため池の保全活動をネットワーク化し保全の重要性を発信
福栄地区	106	鳥取県	日南町	サクラソウ自生地を集落で再生し、都市との交流の資源にも活用
大山鏡ヶ成	107	鳥取県	江府町	行政と地元団体の協力により、管理作業や調査を実施し、動植物の保全とエコツーリズムを展開
三瓶山(東の原)	108	島根県	大田市	草原環境維持を通じた、ウスイロヒョウモンモドキの生息環境保全・管理
世羅台地周辺	113	広島県	三原市	ヒョウモンモドキの生息地地権者と覚書を交換、住民参加で保全活動
伊尾・小谷地区	116	広島県	世羅町	希少種保護のための営農法(品種切替含む)に地元主導で取り組む